

## 論文試験

(注意)

一 本試験問題は指示があるまで開かないこと。

二 本試験問題は(この表紙と白紙を除き)七頁、解答紙は二枚である。「始め」の合図があつたら、それぞれ確認すること。

三 解答文は横書きとし、所定の解答欄に記入すること。

四 論文試験の筆記具は、B又はHBの鉛筆又はシャープペンシルを使用することとし、それに従わない答案は無効とする。

五 ラインマーカー及び色鉛筆の使用は、問題検討のために、問題用紙及び答案構成用の下書き用に限り許可する。

第一問 次の文章をよく読んで小問①、②に答えなさい。

〔出典〕宇野重規『〈私〉時代のデモクラシー』（二〇一〇年、岩波書店）

① 傍線(一)「現代的な個人主義は、近代社会の初期に見られた個人主義とは、まったく異質なものです」とあるが、著者によれば、前者の個人主義における個人は、後者の個人主義におけるそれと比較して、どのような特徴を有するか。

(三〇〇字以上四〇〇字以内)配点七〇点

② 著者によれば、なぜ「一人ひとりの人間による、この〈私〉にとっての人間らしさの追求が、最終的には社会の問い直しにつながる」(傍線(二))のか。この見解に批判的な考え方を紹介した上で、著者の考えをまとめなさい。

(三〇〇字以上四〇〇字以内)配点八〇点

第二問 次の文章をよく読んで小問①、②に答えなさい。

〔出典〕三木清『哲学入門』（岩波書店、一九四〇年）

① 傍線(一)「技術において、客観的なものは主観化されると共に主観的なものは客観化される」とある。この意味するところについて説明しなさい。

(二五〇字以上三〇〇字以内)配点六〇点

② 傍線(二)「人間は技術によって新しい環境を作りつつ自己を新たにするのである」とある。この意味するところについて、本文を踏まえながら、具体例を挙げつつ、あなた自身の考えを述べなさい。

(四〇〇字以上五〇〇字以内)配点九〇点